

令和7年度 第4回 城北小学校運営協議会



<給食委員会主催イベント>

高学年が中心となって企画・運営し、多くの子供たちが参加し、楽しいイベントとなりました。



<1年生：生活科「しめ縄づくり」>

多くのサポーターの皆様のおかげで、全員がしめ縄を完成することができました。



令和8年2月5日（木）

浜松市立城北小学校

第 4 回 城北小学校学校運営協議会

令和8年2月5日

14:30~16:00

会議室

開会 開催要件（委員の過半数の出席）確認 <司会：教頭 記録：田村>

- 1 会長挨拶（岩井会長）
- 2 校長挨拶（校長）
- 3 議長の選出 <出席した委員の互選>
- 4 前回会議録確認・・・資料1
- 5 熟議 <司会：議長>
 - (1) 学校関係者評価・・・資料2
(「いじめ防止等のための基本的な方針について」含む)
 - ①本年度の教育活動の説明
 - ②学校評価を元にした改善案についての説明
 - ③改善策についての熟議
 - (2) 来年度の学校運営の基本方針説明・・・資料3
 - (3) 学校運営協議会の自己評価・・・資料4

- 6 報告 <司会：教頭 記録：田村>
 - ①夢育やらまいか（CS加算分）報告
 - ②1月～3月の城北小サポーター活動実施報告
・学校支援コーディネーターから

7 連絡

- (1) 次年度第1回

令和8年4月23日（木）14:30~16:00 会場：会議室

- (2) 会長・副会長の確認
- (3) 次回の議長の選出
- (4) 次回の熟議内容の確認

閉会

学校運営協議会委員

会長	いわいく み こ 岩井弘美子
副会長	かわしま まさゆき 川嶋 正幸
委員	なかがわ かつお 中川 勝夫
委員	たかやなぎ みちこ 高柳 理子
委員	なかがわ ともひろ 中川 智博
委員	しみず ひろと がっこええん 清水 裕人 (学校支援CD)
委員	かみうえ り え がっこええん 紙上 理恵 (学校支援CD)
委員	たかだ 高田 あゆみ
委員	いしざか のりこ 石坂 紀子

オブザーバー

静岡大学	おおのきりゆうたろう 大野木龍太郎
はままつ青少年の家	いのした しゅんすけ 井下 俊輔
高台協働センター	もりした かずゆき 森下 和之
高台協働センター	すずき こうすけ 鈴木 皓介

学校

校長	つちや けんじ 土屋 憲司
教頭	ふるはし まきこ 古橋 麻紀子
C S 担当教職員	おおた もとこ 太田 礎子
C S ディレクター	たむら しずか 田村 静

浜松市教育委員会

教育総務課	すずき ようこ 鈴木 陽子
-------	------------------

- 1 開催日時 令和7年10月23日（木） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井 弘美子、川嶋 正幸、中川 勝夫、高柳 理子
中川 智博、紙上 理恵、高田 あゆみ
- 4 欠席委員 清水 裕人、石坂 紀子
- 5 オブザーバー 鈴木 皓介（高台協働センター）、井村（青少年の家 代理）
- 6 学 校 土屋 憲司（校長）、古橋 麻紀子（教頭）、今井 省吾（生徒指導主任）
田村 静（CSディレクター）
- 7 教育委員会 なし
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 田村 静
- 10 議長の選出
古橋教頭より議長の選出について意見を求めたところ、岩井会長を推薦する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。
- 11 協議事項
 - (1) 「やさしさ」を形にするために
 - ①城北小学校いじめ防止基本方針について
 - ②取組状況と自己評価
 - ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組状況
 - ・職員による自己評価（中間期）
 - (2) 学校が抱える課題と改善策
 - (3) 「やさしさ」を形にするために（6年生児童による「城北探求」の委員会活動の経過報告）
- 12 会議記録
委員総数9名のうち7名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告が古橋教頭よりあった。
 - (3) 「やさしさ」を形にするために（6年生児童による「城北探求」の委員会活動の経過報告）
杉浦教諭と6年生の委員会代表者より、委員会活動の経過報告があり、委員からは以下の発言があった。
 - ・自分が行った素晴らしいことは、口に出すと更に進化できる。（中川智博委員）
 - ・難しいこと、大変で出来そうもない大きなことに果敢にチャレンジして欲しい。くじけや挫折、立ち直りの経験が積み立てとなり、自身の成長に繋がるので、頑張っ欲しい。（川嶋副会長）
 - (1) 「やさしさ」を形にするために

① 城北小学校いじめ防止基本方針について

② 取組状況と自己評価

- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組状況
- ・職員による自己評価（中間期）

今井生徒指導主任より説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・実際にどんないじめが確認されているか。（川嶋副会長）

→特に多いのが、ひやかしや悪口。被害児童が嫌だと思ふことは全ていじめとして認知している。（今井生徒指導主任）

- ・子供たちが物を言わなくなってしまうのではないかという怖さがある。注意をして終わりではなく、そのような場面に直面した際の対応能力を教えられると良い。（川嶋副会長）

→いじめだと認識した場合は、校長教頭以下、複数人で状況把握をして対応を検討する。解決後も定期的に会議を開き、継続的に対応を確認する。子どもたちとの対話を通して、これからどうしたいかを子ども自身に決めさせるよう心掛けている。保護者の理解と協力もあり、子どもベースで対応出来ている。（校長）

- ・いじめに対処して火を消すと同時に教育活動において、折れない強い心を育み、いじめの件数や重要度の減少を目指しているように認識した。（中川智博委員）
- ・子どもの行動や特性を把握して、早期発見・早期対応が出来ている。教員が子どものことをもっと知ろうと見つめているので、信頼が生まれる。（岩井会長）
- ・いじめが起こらない人間関係を構築することは難しい。（川嶋副会長）
- ・教室が荒れないことが大切。教員が子どもたちにしっかり関わり、子どもたちから目を離さないようにする。先生が見てくれていると極端ないじめに繋がらない。（高柳委員）
- ・教員の心の安定が大切。心が安定している人間しか指導は出来ない。（中川智博委員）
- ・今は教員に対するハードルが高い。もう少し世の中や保護者が寛容になっても良いと思う。（高柳委員）

(2) 学校が抱える課題と改善策

- ・朝の登校時に横断歩道で車が止まらない。子どもたちが手を挙げると止まる。道路を渡りたいときは、主体的に自分の意思を表す。旗振りはいくまで補助。（中川智博委員）

→登校時の旗振りや見守りは人数的に集まりが悪く、厳しいところがある。横断歩道や道路を渡るときは、手を挙げて意思表示をすることを交通安全教室等で継続的に子どもたちに指導していきたい。（教頭）

- ・手を挙げることは、自分の身を守る手段。大人も意思表示をして道路を渡ると良い。（川嶋副会長）

→あいさつや交通安全も教育活動の一つとして教員が指導しなければならない。子ども任せにするのではなく、教員から声を掛ける等、C(Check)からA(Action)へと繋げていきたい。（校長）

- ・あいさつは強制するものではなく、返ってきたらラッキーと思うくらいで良い。少しずつあいさつを返してくれる子が増えた。繰り返しやっていくしかない。（中川勝夫委員）

- ・基本的にあいさつは、自分が気持ちよくなる為の掛け声。言い返して欲しいと見返りを求めると、いじめに繋がる。(川嶋副会長)
- ・今は知らない人には挨拶をしないという風潮がある。顔見知りになったら、子どもたちは声を掛けてくれる。(紙上委員)

(3)「やさしさ」を形にするために

- ・3つの委員の紹介を聞いてどんなことを感じたか。(岩井会長)
 - ・園芸委員のプラカード作りは、花壇が華やかになって良いと思った。(高柳委員)
 - ・サポーターの方々が、自らやりたい時間に花壇で除草作業に携わってくれる。その姿をみた子どもたちが生き生きと取り組んでいけるので、良いサイクルだと思う。(紙上委員)
 - ・仕方なくではなく、好きでやっているその姿に子どもたちは惹かれていく。(川嶋副会長)
- 委員会活動においても、現代の日本の縮図、世相を表しており、子どもたちが自ら体を使って運動場や花壇を綺麗にするのではなく、効率を求めてポスター作りから始める傾向にある。そこを指導する教員がどのように仕掛けて子どもたちに気付かせていくか。物事をうまく運ぶのではなく、失敗と気付きを通して楽しみながら学んでいけると良い。(校長)
- ・今は解説しないと分からないので、分担を割り切ることも大切。(岩井会長)
 - ・子どもたちは柔軟なので、声の掛け方次第で自ら考えていける。(高柳委員)
 - ・体験すると理解習得が早い。調査し情報収集する能力は、探求学習の学びの基本である。その学び方を教えている点は素晴らしい。型に入れずに取り組んで欲しい。(岩井会長)
 - ・興味がそれぞれ違う中で、全員が主体性を持つことは難しい。(高柳委員)
 - ・一括で取り組む課題ではなく、その子の適正化を目指す。子どもによっては細かく指導しなければならない場合もある。(岩井会長)
- 子どもの主体性をどう発揮すれば良いかを考えながら、丁寧に授業を行っている。皆が一定の主体性を発揮しなければならないという訳でなく、1人1人の主体性をどう伸ばすか。探求の方法と同じで、主体的になるにはどのような方法があるのかを教えていく。ゴール(つけたい力と活動)の見通しを持たせると、やる気が芽生えやすい。自己のレベルに合った課題を自ら選択するという自己決定において、更に主体性が育つ。(校長)
- ・教職員に求められていることは、子どもを元気にする力。子どもと教員間の防波堤のようなものが教育であり、教育活動の一環かもしれない。(中川智博委員)
 - ・学ぶことは楽しいことだと思える子どもたちを育てて欲しい。(岩井会長)
 - ・学校生活において、何か楽しいことや輝くことがあれば、学校が楽しい場所になる。頑張りぬく力、乗り越えていく力や生きる力をどうつけていくか。(高柳委員)
- 城北小の教員は、こちらが思っている以上に授業を変えてくれているので、手ごたえはある。一方子どもたちに劇的な変化はまだ感じられない。(校長)
- ・子どものことを認めて自己肯定感を育む。自信を与えて学び方を見つけることを個々に応じて伸ばしていけば、主体性を確立する可能性が高い。そのような子が増えれば、ま

た変わっていくと思う。(岩井会長)

その他報告事項等

(1) 学校支援 CD から

- ① 7月～9月の城北小サポーター活動実施報告
- ② 12月に行う「学校整備ボランティア活動」について

(2) 中川智博委員から夏休みの居場所作りについての実施報告

その他連絡事項等

(1) 学校運営協議会自己評価実施について

次回の運営協議会は、令和8年2月5日(木)14時30分～16時00分に城北小学校会議室で行う。

令和7年度 城北小学校 学校評価

資料 2

1 令和7年度の取組

みとめ合う子 ○「主体的に学習に取り組む態度」の育成を意識した単元構想と授業 ○ 付けたい「資質、能力」を明確にした学校行事等の特別活動 ○ 協働（学び合い）を意識的に取り入れた授業 ○「応援カード」の取組の充実	みがき合う子
--	--------

2 評価比較 （回答数：児童 376/419 教師 20/24 保護者・地域 322/429）

項目内容 「城北小の子どもたちは～」2～14 ○R7年度からの項目	「そう思う・まあそう思う」%		
	児童	教師	保護者 地域
1 子供たちのよいところ、頑張っているところを見つけて、伝えることができる。	/	100	92
2 友達のよいところ、頑張っているところを見つけることができる。	84.2	/	/
3 自分のよいところ、頑張っているところを見つけることができる。	66.4	84.3↑	89
4 友達を励ましたり、友達に感謝を伝えたりすることができる。	87.5	94.7↑	83
5 友達や先生の話最後まで聞くことができる。	88.3↑	52.6	82
6 困っている友達を見かけたら、声をかけたり、助けたりすることができる。	82.1	94.7	87
7 相手の気持ちを考えて行動することができる。	75.3	89.4↑	79
8 授業中、めあてを意識して、運動や学習に取り組んでいる。	82.7↑	94.7	83
9 最後まで粘り強く学習や課題に取り組むことができる。	76.8	89.5	91
10 学習のめあてや自分の目標を振り返り、次の授業や生活に生かしている。	70.8	89.4	77
11 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする授業に取り組んでいる。（そうした場面を設定した授業を行っている。）	82	78.9	85
12 授業の内容は分かりやすい。「主体的に学習に取り組む態度」の育成を意識した単元構想とその授業を行っている。（指導方法を工夫して、子供たちが楽しく学び合いながら学習できるような授業をしようと努めている。）	84.5	94.8	88
13 行事や委員会などの活動の時に、友達とアイデアを出し合ったり、自分から取り組んだりしている。行事や委員会活動において、付けたい「資質・能力」を明確にし、子供たち主導で活動できるように実践できた。	79.6	89.5	86
14 おうえんカードを書くことで、いろいろな友達のことをよりたくさん知ることができた。おうえんカードを充実させる取り組みを行うことができた。	73.1	79	/

15「いじめは決して許さない」という姿勢で子供たちの指導を行っている。	83.2	100	83
16 職員（先生）は子供や保護者の話をよく聞こうと努めている。	89	100	90
17 保護者、地域の人たちの協力を得て、教育活動の充実に努めている、または協力してくれている。	90	100	90

3 「いじめ防止基本方針」の推進についてのアンケート結果（職員対象）回答数 23/25

	調査項目	できている、どちらかといえばできているの割合
1	いじめの定義（「一定の人間関係」「心理的又は物理的な影響を与える行為」「心身の苦痛」）を正しく理解していますか。	100%
2	「学校いじめ防止基本方針」の計画に則った未然防止の取組（いじめの防止等に関する取組）を行っていますか。	100%
3	いじめの未然防止に向けて、自分の役割を自覚して行動することができていますか。	100%
4	自校のアンケートや「はままついじめアンケート」の結果をいじめの発見に有効活用していますか。	95.7%
5	子供との関わり・観察や個人面談をいじめの発見につなげていますか。	100%
6	いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めることができますか。	100%
7	子供や保護者の気持ちに十分寄り添い、傾聴しながらじっくり話を聴いていますか。	100%
8	事実（いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ『5W1H』）を聴き取り、その事実のみ（主観は入れない）を記録に残していますか。	95.6%
9	「校内いじめ対策委員会」でいじめの認知をし、組織的な対応ができていますか。	100%
10	いじめを受けた子供、いじめを行った子供の保護者に、いじめの事実関係や対応方針・経過をできるだけ早く、丁寧に説明していますか。	95.7%
11	いじめの解消に向けて、いじめを受けた子供、いじめを行った子供の気持ちを継続的に確認し、見守っていますか。	100%

4 評価からの分析・考察

- ・項目1～2、6、15～16については、昨年とほぼ結果が変わっていなかった。友達のよいところを見つけたり、伝えたりすることは、子供たちも職員もできていると認識している。
- ・項目3の「自分のよいところを見つけること」の評価は昨年に引き続き子供たちは低い割合である。しかし、それを見ている職員の割合は昨年度に比べ10%以上高くなっている。子供たち自身はあまり認識していないが、友達への思いやりが見られる場面が多くなったと職員は感じている。今年度の重点的な取り組みの「おうえんカード」を利用したり、学び合いを取り入れた授業を行ったりすることで、子供たち同士の関わり合いが増えたことも要因ではないかと考える。今後もよい取り組みとして続けていきたい。
- ・「おうえんカード」については、項目14にあるように、7割強の児童は友達のことをたくさん知ることのできるものであると考えていることが分かった。半面、3割近くの児童は、このカードの他にも方法はあると思っっているのではないかと考えられる。次年度、この活動を継続し、他にも多様性・包摂性を育てる方法をいろいろ試していきたい。
- ・めあてを意識して学習に取り組む児童の割合が少し増えた。主体的に学習に取り組めるように工夫した授業を行えるように研修を積み、実践している成果が少しずつ出てきていると思われる。
- ・いじめに対する指導については、「許さない」姿勢で教員が対応している様子が伝わっていると数字からは考えられるが、教員と児童では意識に差が少しあるので、児童のいろいろな気持ちに沿うようにしていきたい。

5 学校運営協議会による学校関係評価

--

令和8年度 浜松市立城北小学校 学校経営構想（学校運営協議会）

1. 目指す学校像

○ 最上位目標

「子供たちが資質、能力を身に付けることができる学校」

【 資質、能力とは 】

- ①各教科の授業や特別活動等で“身に付けるべきこと”として定められている「力」のことで、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等（主体的に学習に取り組む態度）」の3つ。
- ②学校教育目標の具現化を目指して、目指す子供の姿として掲げた、子供たちに身に付けさせたい「力」のことで、「主体的に学び行動する力」、「他者との協働を楽しむことができる力」、「多様性を受け入れられる力」の3つ。

○ 目指す学校

「失敗できる学校」（子供、教職員、保護者が）

「ウェルビーイングな学校」（子供、教職員、地域・保護者にとって）

2. 目指す子供の姿

- 7・8年度**
- ・ 主体的に学び行動できる子供
 - ・ 他者との協働を楽しむことができる子供
 - ・ 多様性を受け入れられる子供

3. 学校教育目標等

- 7・8年度**
- | | |
|------------|--------------------|
| (1) 学校教育目標 | 「友と仲良く よく遊び よく学ぶ子」 |
| (2) 校 訓 | 「正しく 強く 美しく」 |
| (3) 合 言 葉 | 「やさしさ」 |

4. 取組の重点

7年度

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」の育成を意識した単元構想と授業

- ・ 「授業で勝負」の心意気を持とう！
- ・ 子供の「自分で学ぶ力」を引き出すために、授業を工夫しよう。
- ・ そのために、「単元」というまとまりをより意識して授業を考えよう。
- ・ 工夫のポイントは、ズバリ、「見通し」と「振り返り」ですね。

(2) 付きたい「資質、能力」を明確にした学校行事等特別活動

- ・ 運動会や学習発表会などの活動は、「見栄え」を求めず、「子供たちにどんな力を付けるための活動なのか」を常に意識して、練習から本番までをデザインしよう。

(3) 「学び合い」を意識的に取り入れた授業等

- ・ 教師が教えるだけの「一方的」な授業にならないよう、「学び合い」を意識した授業づくりをしよう。
- ・ もちろん、「学び合い」は授業だけでなく、学校生活のあらゆる場面ですね。給食だって「学び合い」の場ですね。

(4) 「応援カード」の取組の充実

- ・ 「多様性を受け入れられる力」を身に付けるための取組として行いましょう。
- ・ そのためには、教師の手立ての工夫が必要です。子供たちに任せっぱなしでは、「資質・能力」を身に付けさせる取組みになりませんね。

【 ポイント 】

- ・ 各取組の重点は、ある意味「大きな方向性」であって、取組の具体は示されていません。具体は、教師がその専門性を発揮し、学年、学級の子供に実態に合わせて工夫をし、実践例として主体的に生み出していきましょう。
- ・ ですので、生み出した実践例の「共有」と「検証」が大切だと思います。
- ・ 校内研修、運営委員会（学年主任者等の会）、学年会が「共有」、「検証」の場になります。

8年度

(1) 「主体的に学習に取り組む態度」の育成を意識した授業 ～ 「見通し」と「振り返り」の工夫～

- ・ 「授業で勝負」は変わりません！7年度実践の成果を踏まえ、さらなる向上（少力でOK）を目指しましょう。

(2) 付けたい「資質・能力」を明確にした学校行事等特別活動

- ・ 特別活動等の「資質、能力」（3つ）と、本校の「目指す子供の姿」（3つ）について、各活動で教師と子供が共有できるといいですね。

(3) 「応援カード」の取組の充実

- ・ 「多様性を受け入れられる力」を身に付けるための取組として、教師がしっかりと意識することが必要かもしれませんね。
- ・ 同様に子供にも、「多様性を受け入れられる力」を身に付けるための取組であることを伝える（つまり「付けたい力の共有」）と、ぶれがないのでは。

(4) 総合的な学習の時間における探究的な学びの充実

- ・ 「課題の設定」→「情報の収集」→「情報の整理・分析」→「調べたことや考えたことのまとめ・表現」の学習過程で、子供の「探究的な学び」の力を育てましょう。

【ポイント】

- ・ 昨年度（大きな方向性）と比較して、本年度は少し方向性を絞った感もあります。その分、目指す子供の姿に向けて、より成果を深めていきたいところです。
- ・ 方向性を絞ったことによって、教師が専門性を発揮して具体を様々生み出すことが滞ってしまう危険性もあります。
- ・ よって、昨年度の課題点であった、「共有と検証」こそが、本年度最大のポイントだと思います。